

マイクロコントローラ技術情報

技術通知 78K0 統合デバッガ ID78K0-QB 使用制限事項の件		発行番号	ZMT-F35-11-0003号	1/2
		発行日	2011年4月19日	
		発行部門	ルネサス エレクトロニクス株式会社 MCU 事業本部 ソフトウェア統括部 MCU ツール技術部	
文書分類	○ 使用制限事項	バージョンアップ	ドキュメント誤記訂正 (正誤表)	その他
関連資料	ID78K0-QB Ver. 3.10 統合デバッガ 操作編		資料番号 : U19611JJ1V0UM00	

1. 対象製品

対象製品名	概要	対象バージョン
ID78K0-QB	78K0 統合デバッガ	V3.20以下

2. 新たな制限事項

今回新たに No.92, No.93, No.94, No.95 の制限事項を追加させていただきました。
 詳細は、別紙を参照してください。

3. 回避策

詳細は、別紙を参照してください。

4. 改善計画

No.92, No93, No95 の制限事項は、下記バージョンで改善することを計画しております。

ID78K0-QB V3.21

2011年4月26日バージョンアップ・サービス公開

※本日程については予告なく変更する場合がありますので、改善品のリリース日程については、別途、ルネサス エレクトロニクス販売担当までお問い合わせください。

5. 制限事項一覧

添付の別紙をご参照ください。

6. 発行文書履歴

発行文書履歴

文書番号	発行日	記事
ZBG-CD-05-0091	2005/10/4	ID78K0-QB V2.91 使用制限事項通知
ZBG-CD-06-0017	2006/3/13	ID78K0-QB V2.92 使用制限事項通知
ZBG-CD-06-0045	2006/6/26	ID78K0-QB V2.93 使用制限事項通知
ZBG-CD-07-0042	2007/7/12	ID78K0-QB V2.94 使用制限事項通知
ZBG-CD-09-0009	2009/2/5	ID78K0-QB V3.00 使用制限事項通知
ZMT-F35-11-0003	2011/4/19	ID78K0-QB V3.20 使用制限事項通知

ID78K0-QB 使用制限事項一覧

1. 製品履歴

No.	使用制限事項	該当品種	V2.81	V2.82	V2.90	V2.91	V2.92	V2.93	V2.94	V3.00	V3.10	V3.20
1	ウォッチ・ウィンドウのビット変数/ビットフィールドの表示の桁が間違っている制限	共通	マニュアルに記載(デバッグ仕様)									
2	読み取り専用のプロジェクト・ファイルに上書き保存ができる制限	共通	×									
3	PM+ でのアクティブプロジェクトの切り替えがうまくいかない制限	共通	削除(非該当の制限事項)									
4	"*.hex"のような入力によりファイルの種類を変更した場合の制限	共通	×									
5	PM+ でソースを追加してもソース・パスが追加されない制限	共通	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
6	再描画が正しく行われない場合がある制限	共通	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
7	コンフィギュレーション・ダイアログでターゲットマッピングが3箇所までしか設定できない制限	共通	×									
8	トレース・ウィンドウでライトしたデータが優先されて表示される制限	IECUBE	×									
9	イベント・ブレイクした時のアドレス値が1番地前に戻る制限	IECUBE										
10	実行開始アドレスでイベントが発生しない制限	IECUBE	×									
11	実行開始アドレスの次命令の実行前ブレイクでブレイクしない制限	IECUBE										
12	Monitor Clock の設定に関わる制限	MINICUBE MINICUBE2	マニュアルに記載(デバッグ仕様)									
13	ステータス・バーに「POW OFF」が表示されない制限	IECUBE										
14	PFCMD を含むコードがアセンブルできない制限	共通										
15	1バイトのマッピングが出来ない制限	共通	×									
16	Stack Overflow/Underflow が入れ替わっている制限	IECUBE										
17	メモリ・バンクのあり/なし切り替え時にレジスタ・ウィンドウが更新されない制限	IECUBE	×									
18	イベント・マネージャおよびソフトウェア・ブレイク・マネージャが更新されない制限	共通										
19	OCD Checker とデバッグを同時に使用した場合、PC がフリーズする制限	共通										
20	デバッグ・リセットを行うとソフトウェア・ブレイクが使用できなくなる制限	共通										
21	リアルタイム・モニタ設定エリアが選択不可になる制限	IECUBE										
22	実行中にリスタートを行うとリセットのみが行われる制限	共通										
23	実行中に外部リセットが発生するとウィンドウの更新処理が行われる制限	共通										
24	16ビット操作可能なSFRが10個を超えるデバイス使用時、エミュレーションできない制限	MINICUBE MINICUBE2										
25	POC発生後アクセス・ブレイクが無効になる制限	MINICUBE MINICUBE2										
26	トレース・ウィンドウにおいて、リセット要因が表示されない制限	IECUBE	×	×								
27	デバッグ終了時にフラッシュ・メモリの内容が不正になる制限	MINICUBE MINICUBE2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

× : 該当する : 該当しない

No.	使用制限事項	該当品種	V2.81	V2.82	V2.90	V2.91	V2.92	V2.93	V2.94	V3.00	V3.10	V3.20
28	実行後ブレーク以外のイベント設定および正常動作しない制限	共通		x	x							
29	コンフィギュレーション・ダイアログの周波数選択肢表示の制限	IECUBE		x	x							
30	区間タイマの値がオーバーフローした場合の表示の制限	IECUBE		x	x							
31	PM+のヘルプからヘルプを開けない場合がある制限	共通		x	x							
32	疑似リアルタイム RAM モニタ機能設定を不正に設定出来る制限	MINICUBE MINICUBE2		x	x							
33	フレーム指定ダイアログの設定が正常動作しない制限	IECUBE		x	x							
34	レジスタ・ウィンドウで汎用レジスタが RRM されない制限	IECUBE		x	x							
35	ビット操作及び表示に関する制限	共通		x	x	x						
36	不正なアドレスに対する DMM 書き込みがエラーとならない制限	共通		x	x	x						
37	ユーザ・プログラム実行中にソフトウェア・ブレークを設定した場合の制限	共通		x	x							
38	" breakpoint " コマンドでアドレスの範囲指定ができない制限	IECUBE		x	x							
39	" map -clear " コマンドでマッピング情報が正しくクリアされない制限	共通		x	x	x						
40	func#var 形式のシンボルをアドレスに変換できない制限	共通		x	x	x	x	x	x	x	x	x
41	セルフ・プログラミングが正常に実行しない制限	IECUBE		x	x	x	x	x				
42	デバッガ動作が遅くなる制限 1	共通		x	x							
43	デバッガ動作が遅くなる制限 2	共通		x	x							
44	ネクスト・オーバー 実行が正しく行われない制限 1	共通		x	x							
45	メモリ・ウィンドウで最終アドレスに移動すると 1 行多く表示する制限	共通		x	x	x	x	x	x	x	x	x
46	逆アセンブル・ウィンドウの操作に関わる制限	共通	使用上の留意点の注意事項に記載(カーソルの仕様)									
47	逆アセンブル・ウィンドウでサーチに失敗する制限	共通		x	x	x	x	x	x	x	x	x
48	ウォッチ・ウィンドウの[Refresh]ボタンが淡色表示になる制限	共通		x	x	x	x	x	x	x	x	x
49	ウォッチ・ウィンドウに PSW の各ビットを登録した場合の制限	共通		x	x	x	x	x	x	x	x	x
50	DMM ダイアログで PSW の各ビットの値を変更できない制限	共通		x	x	x	x	x	x	x	x	x
51	検索不可領域をまたいで検索できない制限	共通		x	x	x	x	x	x	x	x	x
52	ステップ実行中にバンク間の関数呼び出しを行った際の制限	共通		x	x	x						
53	疑似 RRM 使用時における制限	MINICUBE MINICUBE2		x	x	x	x	x	x	x		
54	スタック・トレース表示機能に関する制限	共通		x	x	x	x	x	x	x	x	x
55	メモリ・バンク内でステップ・インした際の制限	共通		x	x	x	x	x	x	x	x	x
56	ローカル変数の表示に関する制限	共通		x	x	x	x	x	x	x	x	x
57	カバレッジ・クリアを行った際の制限	共通		x	x	x	x	x	x	x	x	x
58	Run-Break タイマに関する制限	MINICUBE MINICUBE2		x	x	x	x	x	x	x		
59	確認ダイアログが裏に隠れてしまう制限	共通		x	x	x						
60	一瞬ブレークが発生してしまう制限	共通		x	x	x						
61	逆アセンブル表示に関する制限	共通		x	x	x						
62	関数内 static 変数を RAM モニタできない制限	共通		x	x	x						

x : 該当する : 該当しない

No.	使用制限事項	該当品種	V2.81	V2.82	V2.90	V2.91	V2.92	V2.93	V2.94	V3.00	V3.10	V3.20
63	DMM ダイアログにて Word サイズを指定して書き込むことができない制限	共通	×	×	×							
64	ステップ実行が正しく行われない制限	共通	×	×	×							
65	トレース検索ダイアログに関する制限	共通	×	×	×							
66	アップロード・ダウンロードに関する制限	共通	×	×	×							
67	ネクスト・オーバー実行が正しく行われない制限 2	共通	×	×	×							
68	逆アSEMBル・ウインドウの表示に関する制限	共通	×	×	×							
69	疑似 RRM のサイズ指定に関する制限	MINICUBE MINICUBE2	×	×	×							
70	セキュリティ・フラグがセットされてしまう制限	MINICUBE MINICUBE2	×	×	×							
71	V2.92 と V2.93 の互換性に関する制限	MINICUBE MINICUBE2	-	-	×							
72	インテル HEX 形式で保存しようとするデバッガがハングアップする制限	共通	×									
73	ダウンロード・ダイアログにてファイルの種類が正常に表示されない制限	共通	×									
74	イベント DMM ダイアログの設定が正常に保存できない制限	IECUBE	×									
75	イベント DMM ダイアログで 2 バイトの SFR が正常に設定できない制限	IECUBE	×									
76	メモリ・バンク 1~5 を使用した場合の制限 1	MINICUBE MINICUBE2	×									
77	メモリ・バンク 1~5 を使用した場合の制限 2	MINICUBE MINICUBE2	×									
78	ソース・ウインドウの最終行にイベント(ブレークポイント等)が設定できない制限	共通	×	×	×	×						
79	[すべてのブレークポイントを削除] ボタンで削除できない制限	IECUBE	×	×	×	×						
80	I/O ポート追加ダイアログでの SFR 追加に関する制限	共通	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
81	フォント・サイズ変更に関する制限	共通	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
82	アクセス・ブレーク設定に関する制限	共通	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
83	ウォッチ・ウインドウに関する制限	共通	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
84	ターゲット・システムの電源電圧に関する制限	MINICUBE MINICUBE2	使用上の留意点の注意事項に記載 (デバイスの仕様内容)									
85	USB ドライバのアンインストール時の制限	共通	使用上の留意点の注意事項に記載 (USB ドライバのアンインストール時の手順)									
86	プロジェクト保存時に Main Clock と同じ情報が Sub Clock に保存される制限	IECUBE	×	×	×	×	×	×	×	×		
87	<構造体>.<メンバ>形式のシンボル変換ができない制限	共通	×	×	×	×	×	×	×	×		
88	xtime - gobreak 使用時の制限	共通	×	×	×	×	×	×	×	×		
89	特定条件においてデバッガの操作が著しく遅くなる制限	共通	×	×	×	×	×	×	×	×		
90	デバッガでアドレスを指定するときの制限	共通	×	×	×	×	×	×	×	×		
91	新規ログイン名でデバッガが起動できない制限	MINICUBE MINICUBE2	×	×	×	×	×	×	×	×		
92	Main Clock 設定が “ System ” 8.00MHz, 16.00MHz 時の制限	MINICUBE2										×
93	サブクロック動作時のブレークに関する制限	共通	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
94	サブクロック動作時の ADCR/ADCRH レジスタ表示に関する制限	共通	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
95	78K0/1x2 の 16 ビット・タイム X0/X1 コンペア・レジスタ 0-3 設定制限	MINICUBE2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

× : 該当する : 該当しない

2. 使用制限事項の詳細

No.1 ウォッチ・ウインドウのビット変数/ビットフィールドの表示の桁が間違っている制限 <共通>

【内容】ビット変数, ビットフィールド共に, ウォッチ・ウインドウに表示させると, 1 桁ではなく 16 桁(2 進数で, 0b1 ではなく 0b0000000000000001)と表示されます。

なお, データ内容は正常です。

【回避策】ありません。

【改善案】ユーザズ・マニュアルを修正しました。

No.2 読み取り専用のプロジェクト・ファイルに上書き保存ができる制限 <共通>

【内容】OS によっては, プロジェクト・ファイル(*.prj, *.pri)のファイル属性を読み取り専用を設定しても, 上書き保存できてしまいます。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.90 で修正しました。

No.3 PM+ でのアクティブプロジェクトの切り替えがうまくいかない制限 <共通>

【内容】非該当の制限事項を記載していたため削除しました。

No.4 "*.hex"のような入力によりファイルの種類を変更した場合の制限 <共通>

【内容】ファイル選択系のダイアログにおいて, ファイル選択エリアで "*.hex"のように指定して拡張子選択エリアの表示を変更しても, 内部的には変更されていません。

【回避策】ファイルの種類は拡張子選択エリアで指定してください。

【改善案】V2.90 で修正しました。

No.5 PM+ でソースを追加してもソース・パスが追加されない制限 <共通>

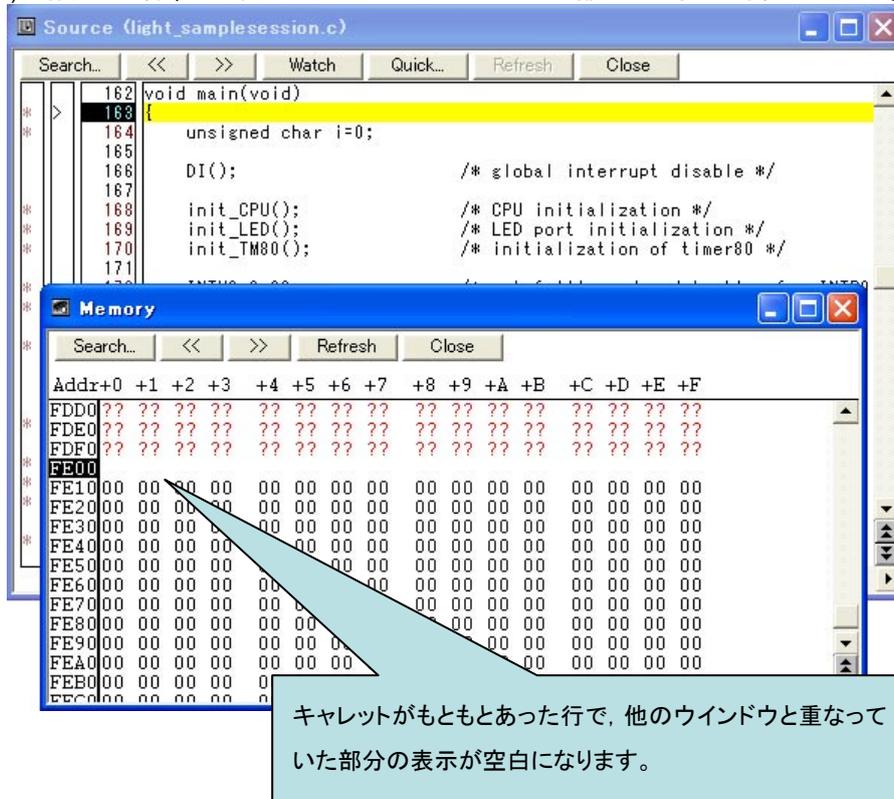
【内容】一度プロジェクト保存を行った状態で, PM+でこれまでソースがなかったパスのソースを追加しても, デバッガ側に新たなソース・パスが追加されません。

【回避策】デバッガのオプション(O) デバッガ・オプション(G)でソース・パスを追加してください。

【改善案】検討中です。

No.6 再描画が正しく行われない場合がある制限 <共通>

【内 容】メモリ・ウィンドウと他のウィンドウが重なっていて、前面にメモリ・ウィンドウが配置されている状態から、一度他の重なっているウィンドウをクリックして前面に配置し、再度メモリ・ウィンドウをクリックして前面に配置すると、メモリ・ウィンドウの表示の一部が空白になります。 caret(文字の入力位置を示すポインタ)が存在した行、かつ他のウィンドウと重なっていた部分の表示が空白になります。



【回避策】空白になった部分の表示は[Refresh] ボタンを押すか、消えている行を再度クリックすることで元の表示に戻ります。

【改善案】検討中です。

No.7 コンフィギュレーション・ダイアログでターゲットマッピングが3箇所までしか設定できない制限 <共通>

【内 容】Memory Mapping において、Target のマッピングが3箇所までしか設定できません。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.90 で修正しました。

No.8 トレース・ウィンドウでライトしたデータが優先されて表示される制限 <IECUBE>

【内 容】ひとつのフレームに、データのリード・ライトが同時に発生した場合、ライトしたデータしかトレース内容として表示されません。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.90 で修正しました。

No.9 イベント・ブレイクした時のアドレス値が1番地前に戻る制限 <IECUBE>

【内容】イベント・ブレイクが発生したアドレス値に、ソフトウェア・ブレイクポイントが存在する場合、アドレス値が1番地前に戻る場合があります。

例1) 同じアドレスに、実行前ブレイクとソフトウェア・ブレイクを設定した場合

例2) 実行後ブレイクを設定した次の命令に、ソフトウェア・ブレイクを設定した場合

【回避策】ブレイク後に実行する際、レジスタ・ウィンドウにてアドレス値を1番地進めてから、実行してください。

【改善案】V2.82 で修正しました。

No.10 実行開始アドレスでイベントが発生しない制限 <IECUBE>

【内容】実行開始アドレスにソフトウェア・ブレイクポイントを設定している場合、実行開始アドレスで成立するイベントが発生しません。関係する機能は、次の場合です。

区間とレースの開始

区間計測の開始

トレース・ディレイ・トリガ

実行後イベント

アクセス・イベント

【回避策】実行開始アドレスにあるソフトウェア・ブレイクポイントを削除してください。実行開始アドレスを再実行した時にブレイクしたい場合には、実行開始アドレスに実行前ブレイクを設定してください。

【改善案】V2.90 で修正しました。

No.11 実行開始アドレスの次命令の実行前ブレイクでブレイクしない制限 <IECUBE>

【内容】実行開始アドレスにソフトウェア・ブレイクポイントを設定していて、次の命令に実行前ブレイクを設定している場合、次の命令ですぐにブレイクしません

【回避策】実行開始アドレスにあるソフトウェア・ブレイクポイントを削除してください。ステップ実行で問題ない場合は、ステップ実行を行ってください。

【改善案】V2.82 で修正しました。

No.12 Monitor Clock の設定に関わる制限 <MINICUBE, MINICUBE2>

【内容】コンフィギュレーション・ダイアログの Monitor Clock を User 側に設定して、サブシステム・クロックまたは、高速内蔵発振クロックで動作している時に、メモリ・ウィンドウ等で値を書き換えても反映されません。メインシステム・クロックに切り替えた時に反映されます。

【回避策】Monitor Clock を System 側に設定してください。または、Monitor Clock を "User" 指定し、かつ、クロックソースにサブシステム・クロックまたは、高速内蔵発振クロックを指定した場合、ブレイク時にメモリへの書き込みを行わないでください。

【改善案】ユーザズ・マニュアルを修正しました。

No.13 ステータス・バーに「POW OFF」が表示されない制限 <IECUBE>

【内容】ターゲット電源を切ってもステータス・バーに「POW OFF」と表示されません。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.82 で修正しました。

No.14 PFCMD を含むコードがアセンブルできない制限 <共通>

【内 容】逆アセンブル・ウインドウにおいて、PFCMD を含むコード(例えば MOV PFCMD,#0A5H)のアセンブルに失敗してしまいます。

【回避策】MOV OFFCOH,#0A5H のように入力してください。

【改善案】V2.82 で修正しました。

No.15 1バイトのマッピングが出来ない制限 <共通>

【内 容】コンフィギュレーション・ダイアログにおいて、サイズが1バイトとなるマッピングができません。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.90 で修正しました。

No.16 Stack Overflow/Underflow が入れ替わっている制限 <IECUBE>

【内 容】ブレーク要因とフェールセーフ・ブレークの設定において、Stack Overflow と Stack Underflow が入れ替わってしまっています (PUSH 命令を実行したときに Stack Underflow が発生します)。

【回避策】Stack Overflow を Stack Underflow に、Stack Underflow を Stack Overflow に読みかえてください。

【改善案】V2.82 で修正しました。

No.17 メモリ・バンクのあり/なし切り替え時にレジスタ・ウインドウが更新されない制限 <IECUBE>

【内 容】コンフィギュレーション・ダイアログにおいて、バンク ROM のサイズを 0 それ以外に変更したとき、レジスタ・ウインドウが更新されず、PC の桁数が変化しません。

【回避策】[Refresh] ボタンなどでレジスタ・ウインドウを更新してください。

【改善案】V2.90 で修正しました。

No.18 イベント・マネージャおよびソフトウェア・ブレーク・マネージャが更新されない制限 <共通>

【内 容】コンソール・ウインドウから “ breakpoint ” コマンドによるブレークの登録に失敗した場合、生成された無効状態のイベントあるいはソフトウェア・ブレークが、イベント・マネージャあるいはソフトウェア・ブレーク・マネージャに表示されない場合があります。

【回避策】いったんイベント・マネージャあるいはソフトウェア・ブレーク・マネージャを閉じてもう一度開くなどして更新してください。

【改善案】V2.82 で修正しました。

No.19 OCD Checker とデバッガを同時に使用した場合、PC がフリーズする制限 <共通>

【内 容】デバッガ起動中に OCD Checker でセルフ・チェックを行うと PC がフリーズします。

【回避策】デバッガと OCD Checker を同時に使用しない様にしてください。

【改善案】V2.82 で修正しました。

No.20 デバッガ・リセットを行うとソフトウェア・ブレークが使用できなくなる制限 <共通>

【内 容】デバッガ・リセット(リセット確認ダイアログで “ Debugger ” を指定)を行うと、以後ソフトウェア・ブレークが使用できなくなります。また、PM+ と連携している場合に、PM+側でプロジェクトを切り替えた場合にもデバッガ・リセットが発生し、ソフトウェア・ブレークが使用できなくなります。

【回避策】デバッガを再起動してください。

【改善案】V2.82 で修正しました。

No.21 リアルタイム・モニタ設定エリアが選択不可になる制限 <IECUBE>

【内 容】拡張オプション・ダイアログで “ Realtime Readout ” を選択すると、リアルタイム・モニタ設定エリアが選択不可になってしまいます(“ Realtime Readout ” は最初から選択状態です)。

【回避策】 “ Realtime Readout ” は選択しないでください。また、選択不可となっても、拡張オプション・ダイアログをいったんクローズし、もう一度オープンすれば選択可能です。

【改善案】 V2.82 で修正しました。

No.22 実行中にリスタートを行うとリセットのみが行われる制限 <共通>

【内 容】ユーザ・プログラム実行中にリスタートを行っても、CPU リセットのみが行われ、実行が停止してしまいます。

【回避策】 “ 継続して実行 ” を行ってください。

【改善案】 V2.82 で修正しました。

No.23 実行中に外部リセットが発生するとウインドウの更新処理が行われる制限 <共通>

【内 容】ユーザ・プログラム実行中に外部リセットが発生すると、各ウインドウの更新処理が行われます。

【回避策】ありません。

【改善案】 V2.82 で修正しました。

No.24 16ビット操作可能なSFRが10個を超えるデバイス使用時、エミュレーションできない制限 <MINICUBE, MINICUBE2>

【内 容】16ビット操作可能なSFRが10個を超えるデバイス使用時、エミュレーションできません。

【回避策】ありません。

【改善案】 V2.82 以上で修正しました。

オンチップ・デバッグの “ プログラムの領域 (デフォルトは 0x8F ~ 0x18f の 257 バイト) ” に対して 10 個を超えた分だけ、この領域を増加してください。

目安としては、越えた個数×6 バイトです。

リンクのオプションで、 “ プログラム領域 ” のサイズをデフォルト(257 バイト) + (越えた個数×6 バイト)のサイズを指定してください。

No.25 POC発生後アクセス・ブレークが無効になる制限 <MINICUBE, MINICUBE2>

【内 容】Power Off エミュレーション機能を有効にし、アクセス・ブレークの設定をした時、POCが発生すると、GUI上アクセス・ブレークの設定が有効になっていますがブレーク機能が無効になり、ブレークしなくなります。

【回避策】ありません。

【改善案】 V2.82 で修正しました。

No.26 トレース・ウインドウにおいて、リセット要因が表示されない制限 <IECUBE>

【内 容】トレース・ウインドウにおいて、リセット要因が表示されません。

【回避策】ありません。

【改善案】 V2.93 で修正しました。

No.27 デバッガ終了時にフラッシュ・メモリの内容が不正になる制限 <MINICUBE, MINICUBE2>

【内 容】デバッガ終了時にフラッシュ書き換えの最低動作電圧未満の場合、デバイスのフラッシュ・メモリの内容が不正になる場合があります。

【回避策】デバッガ再起動時、ロード・モジュールをダウンロードしてください。

【改善案】検討中です。

No.28 実行後ブレーク以外のイベント設定および正常動作しない制限 <共通>

【内 容】ハードウェア・ブレークに設定したハードウェア・イベントが正しく動作しません。実行後ブレークは正常に動作します。

イベント・ダイアログにおいて、Event Status: に “ R/W ” を指定したイベントを設定しようとする時、「F4004: ステータスが不正です。」のエラーが出て設定できません。

イベント・ダイアログにおいて、Event Status: に “ Read ” もしくは “ Write ” を指定したイベントを設定すると、内部的にはそれぞれ"Write"もしくは"R/W"として動作します。この状態によりこのイベントを用いたイベントリンク、ブレーク、トレース、スナップショット、スタブ、タイマ、イベント DMM が正しく動作しません。

ブレーク・ダイアログにおいて、Event Status: に “ Before Execution ” を指定したイベントを使用したブレーク・イベントを有効化しようとする時、「F0400: 指定した条件が不正です。」のエラーが出て有効化することができません

ソース・テキスト・ウインドウおよび変数系のウインドウにおいて、「この変数へのアクセスでブレーク」を設定しようとする時、「Ff504: この変数にブレークは設定できません。」のエラーが出て設定できません。

ソース・テキスト・ウインドウおよび変数系のウインドウにおいて、「この変数への書き込みでブレーク」/「この変数からの読み出しでブレーク」を設定すると、内部的にはそれぞれ「この変数へのアクセスでブレーク」/「この変数への書き込みでブレーク」として動作します。

コンソール・ウインドウにおいて、“ breakpoint - beforeexecute ” コマンドを実行すると、「F0400: 指定した条件が不正です。」のエラーが出て設定できず、無効状態のブレーク・イベントが登録されます。

コンソール・ウインドウにおいて、“ breakpoint - access ” コマンドを実行すると、「F4004:ステータスが不正です。」のエラーが出て設定できません。

コンソール・ウインドウにおいて、“ breakpoint - read ” / “ breakpoint - write ” コマンドを実行すると、内部的には“ breakpoint - write ” / “ breakpoint - access ” として動作します。

ソース・テキスト・ウインドウおよび逆アセンブル・ウインドウにおいて、ハードウェア・ブレークポイントを設定しようとする時、常に実行後ブレークとなります。(IECUBE 接続時のみ)

ソース・テキスト・ウインドウおよび逆アセンブル・ウインドウにおいて、ハードウェア・ブレークポイントを設定しようとする時、「F0400: 指定した条件が不正です。」のエラーが出て設定できず、無効状態のブレーク・イベントが登録されます。(MINICUBE, MINICUBE2 接続時のみ)

【回避策】ありません。

【改善案】V2.92 で修正しました。

No.29 コンフィギュレーション・ダイアログの周波数選択肢表示の制限 <IECUBE>

【内 容】コンフィギュレーション・ダイアログの Main Clock (メイン・クロック・ソース選択エリア) で System を選択し、ドロップダウン・リストの周波数で「8.33」MHz を選択しても、動作周波数は 8.38MHz になってしまいます。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.92 以降ではドロップダウン・リストの表示を「8.38」MHz に修正しました。

No.30 区間タイマの値がオーバーフローした場合の表示の制限 <IECUBE>

【内 容】区間タイマの “ Pass: ” および “ Max: ” の値がオーバーフローした場合、正しい値を表示しません。

【回避策】オーバーフローした場合、実行時間表示エリア計測値が赤色で表示しますので、オーバーフローしていると判断してください。

【改善案】V2.92 で修正しました。

No.31 PM+ のヘルプからヘルプを開けない場合がある制限 <共通>

【内 容】ID78K0-NS V2.52 以前と ID78K0-QB V2.91 以前を同時にインストールした場合、先にインストールしたデバッグのヘルプを PM+ の “ヘルプ(H)”メニューから開くことが出来ません。

【回避策】デバッグのメニューバー、あるいは Windows のスタートメニューからヘルプを開いてください。

【改善案】V2.92 で修正しました。

No.32 疑似リアルタイム RAM モニタ機能設定を不正に設定出来る制限 <MINICUBE, MINICUBE2>

【内 容】1)~5)の操作で RRM 設定ダイアログを開き、6)~9)の操作を行うと、7)にて “ Use MINICUBE Extended Function ” のチェックを外しているにもかかわらず、疑似リアルタイム RAM モニタ機能が設定でき動作してしまいます。

- 1) 拡張オプション設定ダイアログをオープンする
- 2) “ Use MINICUBE Extended Function ” をチェックする
- 3) “ Break When Readout ” で “ RRM Setting ” を選択する
- 4) “ OK ” を押して拡張オプション設定ダイアログをクローズする
- 5) RRM 設定ダイアログをオープンする
- 6) 拡張オプション設定ダイアログをオープンする(不正な操作)
- 7) “ Use MINICUBE Extended Function ” のチェックを外す(不正な操作)
- 8) “ OK ” を押して拡張オプション設定ダイアログをクローズする(不正な操作)
- 9) RRM 設定ダイアログで RRM を設定する(不正な操作)

【回避策】6),7),8),9)の操作をすることなく、本来の RRM 設定ダイアログ内にサンプリング範囲を指定してください。

6),7),8),9)の操作で疑似リアルタイム RAM モニタ機能が設定した場合、拡張オプション設定ダイアログの “ Use MINICUBE Extended Function ” および “ Break When Readout ” の項目を再設定することにより、正しい状態となります。

【改善案】V2.92 で修正しました。

No.33 フレーム指定ダイアログの設定が正常動作しない制限 <IECUBE>

【内 容】トレース・ウインドウのフレーム指定ダイアログにおいて，“Frame.No ”で“First ”あるいは“Last ”を入力した場合，対応するラジオ・ボタン(“1st frame of last block ”あるいは“Last frame of last block ”)と移動先が異なります。

【回避策】ラジオ・ボタン(“1st frame of last block ”あるいは“Last frame of last block ”)で移動先を指定してください。

【改善案】V2.93 で修正しました。

No.34 レジスタ・ウインドウで汎用レジスタがRRM されない制限 <IECUBE>

【内 容】拡張オプション設定ダイアログで“Break When Readout: ”に“Off ”を指定している場合，レジスタ・ウインドウにおいて，ユーザ・プログラム実行中は汎用レジスタの値がリアルタイムに更新されません。メモリ・ウインドウではリアルタイムに更新されます。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.93 で修正しました。

No.35 ビット操作及び表示に関する制限 <共通>

【内 容】 ユーザ・プログラムやアセンブル・ウインドウで“SET1 ISP ”を入力すると，アセンブル・ウインドウでの表示が“SET1 ISP ”あるいは“SET1 PSW.1H ”でなく，“SET1 ISP.1H ”となります。また，“CLR1 ”命令でも同様の表示となります。

逆アセンブルにて，SET1 等のビットシンボル(ASM ソース)やビット変数(C ソース)を正しく表示できません。

SFR ウインドウのアドレス指定ダイアログにて，ビット SFR のアドレスを指定するとエラー表示されてしまいます。

ビット単位のアドレス指定でブレークポイントを作成するとエラーとなります。

(例) 以下のイベント条件をブレークに設定した場合

Event Status : Write

Access Size : Bit

Address : x == A

A : 0xfede.7

【回避策】ありません。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.36 不正なアドレスに対する DMM 書き込みがエラーとならない制限 <共通>

【内 容】メモリ・バンク使用時に，DMM ダイアログにおいて，0x17fff あるいは0x1c000 のような不正アドレスを指定してもエラーとならず，それぞれ0x7fff あるいは0xc000 に対して DMM 書き込みが行われます。

また，メモリ・ウインドウ上で0x17fff あるいは0x1c000 のような不正アドレスに対して書き込みを行った場合も，それぞれ0x7fff あるいは0xc000 に対して書き込みが行われます。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.37 ユーザ・プログラム実行中にソフトウェア・ブレークを設定した場合の制限 <共通>

【内 容】ユーザ・プログラム実行中にソフトウェア・ブレークを設定した場合，一瞬ブレークしてよいか確認するダイアログが出ず，そのまま設定されます（一瞬ブレークが発生します）。

【回避策】一瞬ブレークを行いたくない場合，ユーザ・プログラム実行中はソフトウェア・ブレークを設定しないでください。

【改善案】V2.93 で修正しました。

No.38 “ breakpoint ” コマンドでアドレスの範囲指定ができない制限 <IECUBE>

【内 容】コンソール・ウインドウにおいて，“ breakpoint ” コマンドでアドレスの範囲指定を行うことができません。

【回避策】範囲指定を行いたい場合，イベント・ダイアログで行ってください。

【改善案】V2.93 で修正しました。

No.39 “ map - clear ” コマンドでマッピング情報が正しくクリアされない制限 <共通>

【内 容】コンソール・ウインドウにおいて，“ map - clear ” コマンドでメモリ・マッピング情報が正しくクリアされません。

【回避策】マッピング情報をクリアしたい場合，コンフィギュレーション・ダイアログで行ってください。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.40 func#var 形式のシンボルをアドレスに変換できない制限 <共通>

【内 容】シンボル変換ダイアログにおいて，変換対象が変数の場合，func#var 形式のシンボル（func 関数名，var:変数名）をアドレスに変換することができません。

関数内 static 変数を func#var 形式のシンボル（func:関数名，var:変数名）でウォッチ登録すると，変数の値を表示できません。

【回避策】func#var 形式以外の指定方法（var 形式，file#var 形式，file#func#var 形式）で設定してください。関数内 static 変数などで，同名の変数名が他に存在するときは，PC（プログラム・カウンタ）が当該関数内に存在しているときに設定してください。（file:ファイル名）

【改善案】検討中です。

No.41 セルフ・プログラミングが正常に実行しない制限 <IECUBE>

【内 容】BANK レジスタに “ BANK0 ” 以外を設定した状態でセルフ・プログラミングを行った場合，正常にセルフ・プログラミングを行えません。

例えば，BANK レジスタを “ BANK5 ” に設定した状態で “ CALL !8100 ” を行った場合，58100 番地に分岐してしまいます。対象デバイスでは BANK レジスタの設定にかかわらずセルフ・プログラミングの動作が可能です。

【回避策】セルフ・プログラミングを行う場合は，BANK レジスタに “ BANK0 ” を設定した状態でセルフ・プログラミングを実行（ “ CALL !8100 ” ）を行ってください。

【改善案】V3.00 で修正しました。

本件は ID78K0-QB と IECUBE の両方をバージョンアップする必要があります。対応している IECUBE をご使用ください。

No.42 デバッガ動作が遅くなる制限 1 <共通>

【内 容】ウォッチ・ウインドウにて、変数や配列を多数登録した場合、デバッガ動作が遅くなる場合があります。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.93 で修正しました。

No.43 デバッガ動作が遅くなる制限 2 <共通>

【内 容】レジスタ・ウインドウの PC(プログラム・カウンタ)に、バンク・アドレスの “0x*a97f (*=1~5)” 以降を入力するとデバッガ動作が遅くなります。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.93 で修正しました。

No.44 ネクスト・オーバー 実行が正しく行われない制限 1 <共通>

【内 容】バンク領域からコモン領域へ戻る命令をネクスト・オーバー 実行すると、実行を停止しません。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.93 で修正しました。

No.45 メモリ・ウインドウで最終アドレスに移動すると 1 行多く表示する制限 <共通>

【内 容】メモリ・ウインドウの “移動(V)” メニューで、最終アドレス(例えば BANK の無いデバイスの場合は 0xFFFF0 ~ 0xFFFFF)を指定して移動した場合、1 行多く表示します。

【回避策】ありません。

【改善案】検討中です。

No.46 逆アセンブル・ウインドウの操作に関わる制限 <共通>

【内 容】逆アセンブル・ウインドウで入力できない位置に、カーソルキーや Back Space キーで移動できてしまいます。

カーソルがキー操作入力できない位置に移動してしまいます。

【回避策】ありません。

【改善案】カーソルの仕様でデバッガの動作に支障がないので、注意事項に移行しました。

No.47 逆アセンブル・ウインドウでサーチに失敗する制限 <共通>

【内 容】逆アセンブル・ウインドウにおいて、サーチ範囲の最後の 0x400 分が検索対象とならない場合があります。例えば 0x1000 ~ 0x1FFF の範囲を Down 方向に検索した場合、0x1C00 ~ 0x1FFF の範囲に検索対象文字列があってもサーチに失敗する場合があります。同様に、0x2000 ~ 0x2FFF の範囲を Up 方向に検索した場合、0x2000 ~ 0x23FF の範囲はサーチに失敗する場合があります。

【回避策】0x400 余分に検索してください。

例) 0x1000 ~ 0x1FFF を Down 方向に検索したい場合は 0x1000 ~ 0x23FF にしてください。

【改善案】検討中です。

No.48 ウォッチ・ウインドウの[Refresh] ボタンが淡色表示になる制限 <共通>

【内 容】ウォッチ・ウインドウにおいて、一番下の項目を削除すると[Refresh] ボタンが淡色表示となります。

【回避策】ウォッチ・ウインドウをいったんクローズし、再度オープンしてください。

【改善案】検討中です。

No.49 ウォッチ・ウインドウに PSW の各ビットを登録した場合の制限 <共通>

【内 容】ウォッチ・ウインドウにおいて、PSW の各ビット(ie, z, rbs1, ac, rbs0, isp, cy)を登録すると、表示される値が正しくありません。また、値を変更しようとする以下のエラーが表示されます。

「A9004:レジスタのサイズが大きすぎます。」

【回避策】レジスタ・ウインドウで値の確認および変更を行ってください。

【改善案】検討中です。

No.50 DMM ダイアログで PSW の各ビットの値を変更できない制限 <共通>

【内 容】DMM ダイアログにおいて、PSW の各ビット(ie, z, rbs1, ac, rbs0, isp, cy)の値を変更しようとする以下のエラーが表示されます。

「A9004:レジスタのサイズが大きすぎます。」

【回避策】バイト単位で PSW の値を変更してください。

【改善案】検討中です。

No.51 検索不可領域をまたいで検索できない制限 <共通>

【内 容】メモリ・サーチ・ダイアログおよび逆アセンブル・サーチ・ダイアログにおいて、検索範囲に検索不可領域(ノンマップ領域、SFR 領域、I/O プロテクト領域)が入っていると、その領域以降を検索しません。

【回避策】ありません。

【改善案】検討中です。

No.52 ステップ実行中にバンク間の関数呼び出しを行った際の制限 <共通>

【内 容】デバッガ(Cソース表示)のステップ実行中にバンク間の関数呼び出しを行った際にステップ実行画面が予期しない場所で停止します。

以下の条件を全て満たした時に発生します。

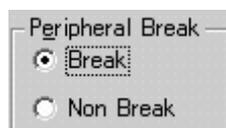
バンク呼び出しのCソースをステップ実行

上記ステップ実行中に割り込みが発生する

割り込みハンドラ内で、 と異なるバンクの呼び出しが存在する

Peripheral Break が “ Non Break ” に設定されている

【回避策】デバッガのオプション->コンフィギュレーション設定画面で Peripheral Break 項目の “ Break ” にチェックをすることで発生頻度を低減できます。または、ステップ実行時に混合表示を設定してアセンブラ表示を行ってください。



【改善案】V2.94 で修正しました。

No.53 疑似 RRM 使用時における制限 <MINICUBE, MINICUBE2>

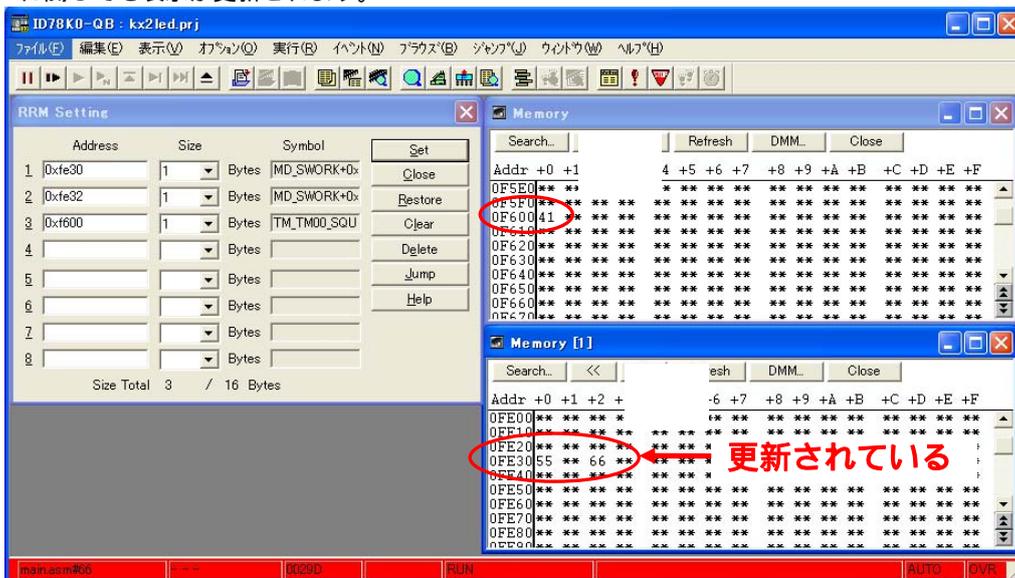
【内 容】疑似 RRM を複数設定した場合、メモリ・ウインドウやウォッチ・ウインドウにて RRM 設定した最小アドレスを表示しておかないと、RRM 設定した他のアドレスが更新されません。

(例) 例えば、アドレスの

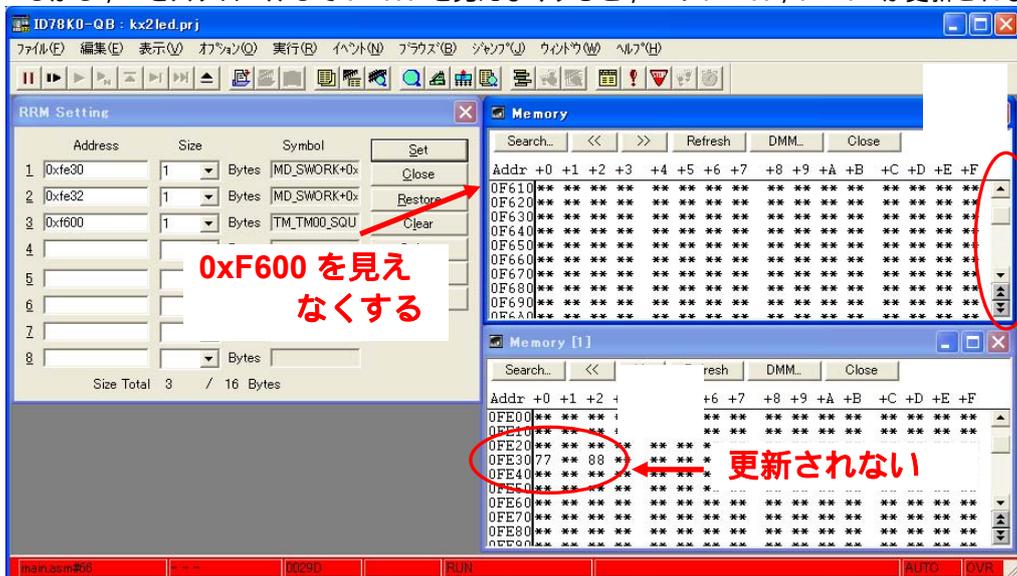
0xF600, 0xFE30, 0xFE32

を各 1byte の RRM を行っているとして

RRM 設定したアドレスの中で最小アドレスである 0xF600 をにて表示させておけば にある 0xFE30, 0xFE32 に関しても表示が更新されます。



しかし、をスクロールして 0xF600 を見えなくすると、の 0xFE30, 0xFE32 が更新されなくなります。



【回避策】メモリ・ウインドウを複数表示させたり、ウォッチ・ウインドウで最小アドレスを常時見えるようにしてください。

【改善案】V3.10 で修正しました。

No.54 スタック・トレース表示機能に関する制限 <共通>

【内容】スタック・トレース表示機能は、スタックにフレーム・ポインタ(HL)を Push しない関数(noauto, norec 関数等)がある場合やメモリ・バンクを使っている場合には、main 関数まで正しく表示されないことがあります。

また、スタックにフレーム・ポインタ(HL)を Push しない関数(noauto, norec 関数等)や、メモリ・バンク関数からリターン実行した場合、フリーラン状態になることがあります。

【回避策】ありません。

【改善案】検討中です。

No.55 メモリ・バンク内でステップ・インした際の制限 <共通>

【内容】メモリ・バンク内のユーザ定義ライブラリ関数またはメモリ・バンク内のデバッグ情報なし関数にソース・レベルでステップ・インした場合、バンク切り替えライブラリ内でブレイクします。

【回避策】ありません。

【改善案】検討中です。

No.56 ローカル変数の表示に関する制限 <共通>

【内容】スタック・トレース・ウインドウで、現在のスコープ外のローカル変数は、正しく表示できません。

【回避策】ありません。

【改善案】検討中です。

No.57 カバレッジ・クリアを行った際の制限 <共通>

【内容】カバレッジ・クリアを実行したときに、コード・カバレッジ・ウインドウが最前面にあると、メモリ・ウインドウのアクセス・モニタの色が消えないことがあります。

【回避策】メモリ・ウインドウの[Refresh] ボタンを押して再描画してください。

【改善案】検討中です。

No.58 Run-Break タイマに関する制限 <MINICUBE, MINICUBE2>

【内容】MINICUBE2 で RUN 中にメモリの書き込み(疑似 DMM)を行うと Run-Break タイマをリセットしてしまいます。

【回避策】ありません。

【改善案】V3.10 で修正しました。

No.59 確認ダイアログが裏に隠れてしまう制限 <共通>

【内容】PC の処理が非常に重い場合、確認ダイアログがメイン・ウインドウの裏に隠れる場合があります。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.60 一瞬ブレークが発生してしまう制限 <共通>

【内容】ウォッチ・ウインドウに変数やレジスタを登録した場合，疑似 RRM の設定が OFF でも CPU を一瞬止めて読み出してしまう。

また，RUN 中に変数登録したウォッチ・ウインドウを開いていると Run-Break タイマが停止してしまいます。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.61 逆アセンブル表示に関する制限 <共通>

【内容】RUN 中に 0x18000 以降のバンク領域を逆アセンブル表示すると，バンク 0 領域(0x8000 ~ 0xBFFF 番地)を逆アセンブルしてしまいます。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.62 関数内 static 変数を RAM モニタできない制限 <共通>

【内容】ウォッチ・ウインドウで関数内 static 変数を RAM モニタすることができません。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.63 DMM ダイアログにて Word サイズを指定して書き込むことができない制限 <共通>

【内容】RUN 中に，DMM ダイアログで，サイズに Word を指定して値を書き込むとエラーになり，書き込むことができません。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.64 ステップ実行が正しく行われない制限 <共通>

【内容】以下の様なソース行を正しくステップできません(“F7801: ステップ実行の終了待ち状態をキャンセルしました。”と表示されます)。

C ソースで関数の最終行に対応する命令が 1 バイト命令の時，その最終行

ASM ソースでセグメントの最終行で，次のセグメントまでに空白行があり，かつ 1 バイト命令の命令行

【回避策】ありません。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.65 トレース検索ダイアログに関する制限 <共通>

【内容】トレース検索ダイアログのアドレス指定にシンボルを指定しての検索ができません。また，アドレス指定に非常に長い文字列を指定するとデバッガが終了する場合があります。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.66 アップロード・ダウンロードに関する制限 <共通>

【内 容】メモリ・バンク領域を含むアップロード，ダウンロードを行った場合，一部のメモリ・バンク領域が正しくアップロード，ダウンロードできません。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.67 ネクスト・オーバー実行が正しく行われない制限 2 <共通>

【内 容】メモリ・バンク領域中にある関数の最後の “ } ” をネクスト・オーバー実行すると，正しくないバンクの呼び元に戻ってしまいます。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.68 逆アセンブル・ウインドウの表示に関する制限 <共通>

【内 容】メモリ・バンク領域内の命令を逆アセンブル・ウインドウで表示する際，表示される命令にメモリ・バンク領域内のシンボルが使用されていると，異なるバンクのシンボルを表示してしまう場合があります。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.69 疑似 RRM のサイズ指定に関する制限 <MINICUBE, MINICUBE2>

【内 容】RRM 設定ダイアログにて，RAM モニタのアドレスに奇数番地を設定しても，実際には偶数番地にアラインされてしまいます。

【回避策】奇数番地を RAM モニタする場合には “ Size ” を “ 2 ” 以上に設定してください。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.70 セキュリティ・フラグがセットされてしまう制限 <MINICUBE,MINICUBE2>

【内 容】メモリ・バンクがある特定の値になっていて，以下の操作を行った時に，セキュリティ・フラグがセットされてしまう場合があります。

「ファイル」 「プロジェクト」 「開く」にてプロジェクト・ファイルを再度読み込んだ場合
プロジェクト・ファイル(*.pri)が存在する時に PM+からデバッガを起動した場合
デバッガのリセット確認ダイアログからデバッガ・リセットを行った場合
PM+とデバッガが両方起動している状態で，PM+から終了した場合

【回避策】ありません。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.71 V2.92 と V2.93 の互換性に関する制限 <MINICUBE,MINICUBE2>

【内 容】V2.92 で作成したプロジェクト・ファイルを V2.93 で開くことができない場合があります。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.94 で修正しました。

No.72 インテル HEX 形式で保存しようとするデバッガがハングアップする制限 <共通>

【内 容】アップロード・ダイアログにて以下の全ての条件が成立するとデバッガがハングアップしてしまいます。

- インテル HEX 形式でのアップロード
- セーブ終了アドレスが 64KB 以内のアドレス
- セーブ終了アドレスがノンマップ領域

【回避策】ありません。

【改善案】V2.91 で修正しました。

No.73 ダウンロード・ダイアログにてファイルの種類が正常に表示されない制限 <共通>

【内 容】メモリ・バンク切り替え機能使用時に以下の 1) ~ 3)の手順を行った場合、ヘキサ・フォーマット、バイナリ・データをバンク・エリアへダウンロードすることができません。

- 1) ロード・モジュールをダウンロード
 - 2) プロジェクト・ファイルを保存
 - 3) 保存したプロジェクト・ファイルを開き再ダウンロード
- 1) ~ 3)の手順を行った場合、ダウンロード・ダイアログの「ファイルの種類」で以下の 4 つのファイル形式が表示および選択できません。

- ・ Hex Format [Bank](*.hex)
- ・ Hex Format [64KB](*.hex)
- ・ Binary Data [Bank](*.bin)
- ・ Binary Data [64KB](*.bin)

このとき、本来は「ファイルの種類」で下記のファイル形式を表示 / 選択できるはずですが、

- ・ Hex Format [Bank](*.hex)
- ・ Hex Format [64KB](*.hex)
- ・ Binary Data [Bank](*.bin)
- ・ Binary Data [64KB](*.bin)
- ・ Coverage (*.cvb) (IECUBE 接続時)

ヘキサ・フォーマット、バイナリ・データは、コモン・エリアへダウンロードする以下の 2 つファイル形式のみ表示および選択します。

- ・ Hex Format (*.hex)
- ・ Binary Data (*.bin)
- ・ Hex Format [64KB](*.hex)

【回避策】下記操作を行うことで制限状態を回避することができます。

コンフィギュレーション・ダイアログを開き、"Use Bank"がチェックされていることを確認してから OK ボタンでコンフィギュレーション・ダイアログを閉じる。

【改善案】V2.91 で修正しました。

No.74 イベント DMM ダイアログの設定が正常に保存できない制限 <IECUBE>

【内 容】イベント DMM ダイアログにて、Select(イベント DMM データ選択エリア)を sfr に設定し、環境設定ファイルやプロジェクト・ファイルの保存をすると、そのイベントが正常に保存されません。

また、環境設定ファイルやプロジェクト・ファイルをロードしても、そのイベントは復元できません。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.91 で修正しました。

No.75 イベント DMM ダイアログで2バイトのSFR が正常に設定できない制限 <IECUBE>

【内 容】イベント DMM ダイアログで2 バイトのSFR を9~18bit 幅でセットしようとする時、以下のエラーメッセージが表示されセットできません。

「F4005 : データが不正です」

【回避策】ありません。

【改善案】V2.91 で修正しました。

No.76 メモリ・バンク 1~5 を使用した場合の制限 1 <MINICUBE, MINICUBE2>

【内 容】メモリ・バンク 1~5 を使用した場合（メモリ・バンク選択レジスタ：00h以外）、コモン・エリアにある命令にソフトウェア・ブレークを設定し、その命令からプログラム実行すると不正な命令を実行してしまいます。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.91 で修正しました。

No.77 メモリ・バンク 1~5 を使用した場合の制限 2 <MINICUBE, MINICUBE2>

【内 容】メモリ・バンク 1~5 を使用した場合（メモリ・バンク選択レジスタ：00h以外）、アクセス対象がバンク・エリア 1~5 の命令をステップ実行した時、または、アクセス対象がバンク・エリア 1~5 の命令をソフトウェア・ブレークポイントに設定した後その命令をリアルタイム実行機能による実行を行った時にメモリ・バンク 0 の領域に対してアクセスしてしまいます。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.91 で修正しました。

No.78 ソース・ウインドウの最終行にイベント（ブレークポイント等）が設定できない制限 <共通>

【内 容】下図のように、ソース・ファイル最後の命令が1バイト命令の場合（例：RET 命令）、その命令行にプログラム・コード（*）の表示が無く、イベント（ブレークポイント等）が設定できない場合やステップ実行できない状態となります。

Search...	<<	>>	Watch	Quic
* 63			PUSH	AX
* 64			CLR1	RSTOP
* 65			CLR1	XSEL
* 66			CLR1	MCMO
* 67			SET1	MCMO
* 68			CLR1	OSCSELS
* 69			SET1	MSTOP
* 70			MOV	PCC, A
* 71			POP	AX
72			RET	
73			END	

【回避策】逆アセンブル・ウインドウでイベント（ブレークポイント等）の設定、およびステップ実行してください。

【改善案】V3.00 で修正しました

No.79 [すべてのブレークポイントを削除] ボタンで削除できない制限 <IECUBE>

【内 容】一つのイベントをブレーク（ハードウェア・ブレーク）の他にも使用している状態で、「実行(R)」 「すべてのブレークポイントを削除(K)」を実行してもブレークポイントは削除されません。

【回避策】削除する場合は、イベント・マネージャ等から一つずつ削除してください。

【改善案】V3.00 で修正しました。

No.80 I/O ポート追加ダイアログでの SFR 追加に関する制限 <共通>

【内 容】I/O ポート追加ダイアログ(ソース内で SFR 名を別名に define している場合などに使用するダイアログ)で SFR の登録を行う場合、以下の制限事項があります。

R/W 属性の SFR を、W 属性として別名で登録し、その SFR をさらにウォッチ・ウインドウへ登録してウォッチ・ウインドウから値を変更した場合、SFR ウインドウで表示している値が更新されません。

以下の2つの条件を両方とも満たす SFR を登録した場合、SFR の登録は可能ですが、SFR ウインドウのコンテキスト・メニュー(右クリック・メニュー)の[移動]で登録した SFR を表示しようとすると、エラーになってしまい移動できません。

- ・ 登録する SFR の名前が汎用レジスタの名前と同じ
- ・ 登録するアドレスが SFR 領域のアドレス(実際の汎用レジスタとは異なるアドレス)

【回避策】 ウォッチ・ウインドウで値を変更する際は、2 回以上入力してください。もしくは SFR ウインドウで値を変更してください。

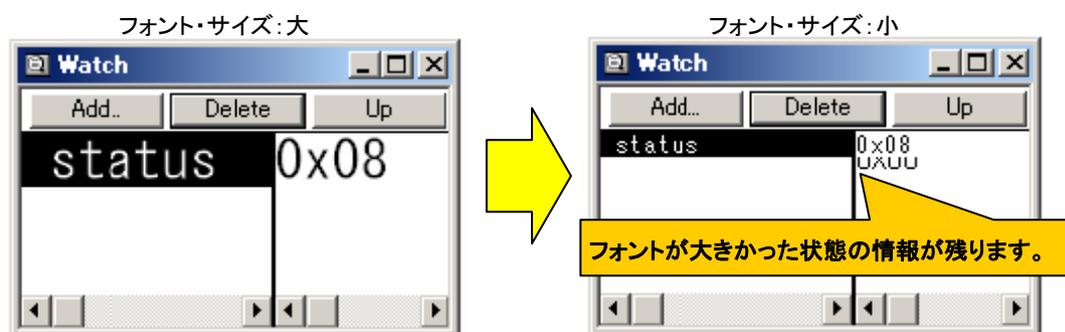
ありません。

【改善案】 検討中です。

No.81 フォント・サイズ変更に関する制限 <共通>

【内 容】ウォッチ・ウインドウ、およびローカル変数ウインドウのフォント・サイズは[オプション]メニューにある[デバッグ・オプション]内の[Font]エリアで指定できますが、フォント・サイズを小さくした場合、フォントが大きかった状態の情報が残ります。

(下図はウォッチ・ウインドウの例)



【回避策】 どちらのウインドウの場合でも、ウインドウを一度最小化して、元のサイズに戻してください。もしくは、ウインドウを一度閉じてから、再度開いてください。

【改善案】 検討中です。

No.82 アクセス・ブレーク設定に関する制限 <共通>

【内 容】 ウォッチ・ウインドウからアクセス・ブレークを設定する場合、global 変数以外に設定できません。

ソース・ウインドウからアクセス・ブレークを設定する場合、global 変数以外に設定できません。

【回避策】 関数内 static 変数に対するアクセス・ブレーク設定は、関数内にカレント PC 行が有るときに、イベント・ダイアログを使って設定してください。

ファイル内 static 変数に対するアクセス・ブレーク設定は、ファイル内にカレント PC 行が有るときに、イベント・ダイアログを使って設定してください。

【改善案】 検討中です。

No.83 ウォッチ・ウインドウに関する制限 <共通>

- 【内 容】 ウォッチ・ウインドウに汎用レジスタを登録した場合，表示桁が不正になる場合があります。
(例えば PC レジスタの場合，本来は 5 桁ありますが 4 桁の表示になることがあります。)
ウォッチ・ウインドウにおいて，一番下の項目を削除すると[Refresh]ボタンがグレー表示となりボタンを押すことが出来なくなります。
- 【回避策】 汎用レジスタの参照はレジスタ・ウインドウで行なってください。
ウォッチ・ウインドウを一度閉じてから，再度開いてください。
- 【改善案】 検討中です。

No.84 ターゲット・システムの電源電圧に関する制限 <MINICUBE, MINICUBE2>

- 【内 容】 μ PD179F11x, μ PD179F12x マイクロコントローラをオンチップ・デバッグする際は，ターゲット・システムの電源電圧を 2.7V 以上にしてください。2.7V 未満ではデバッグを起動することができません。
- 【回避策】 ありません。
- 【改善案】 デバイスの仕様に関する内容のため注意事項に移行しました。

No.85 USB ドライバのアンインストール時の制限 <共通>

- 【内 容】 ID78K0-QB V3.00 添付のUSB ドライバをインストールした後に旧バージョン (NEC Tools32環境) のUSB ドライバをアンインストールすると，システムに登録しているUSB ドライバが削除され，エミュレータを認識しません。
なお，次バージョンのUSB ドライバをインストールした後，ID78K0-QB V3.00 添付のUSB ドライバをアンインストールしても上記の制限は起こりません。
- 【回避策】 ID78K0-QB V3.00 添付のUSB ドライバをコントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」または「プログラムの追加と削除」を起動し，再度インストールしてください。
旧バージョン (NEC Tools32 環境) のUSB ドライバをアンインストールする場合は，ID78K0-QB V3.00 添付のUSB ドライバをインストール前にアンインストールしてください。
- 【改善案】 USBドライバのアンインストール時の手順として注意事項に移行しました。

No.86 プロジェクト保存時に Main Clock と同じ情報が Sub Clock に保存される制限 <IECUBE>

- 【内 容】 コンフィギュレーション・ウインドウで，Sub Clock の設定を変更してプロジェクトを保存しても，プロジェクトには Sub Clock の設定が保存されず Main Clock と同じ情報で保存されてしまいます。
- 【回避策】 保存したプロジェクトを開いた後，コンフィギュレーション・ウインドウで設定を変更してください。
- 【改善案】 V3.10 で修正しました。

No.87 <構造体>.<メンバ>形式のシンボル変換ができない制限 <共通>

【内 容】<構造体>.<メンバ>形式の変数をシンボル変換することが出来ません。

```
struct S {
    int x;
    int y;
} sobj,*p_sobj;

void main()
{
    p_sobj = &sobj;
    sobj.x = 1;
    p_sobj->x = 2;
}
```

上記の のシンボル変換に失敗します。

【回避策】ありません。

【改善案】V3.10 で修正しました。

No.88 xtime - gobreak 使用時の制限 <共通>

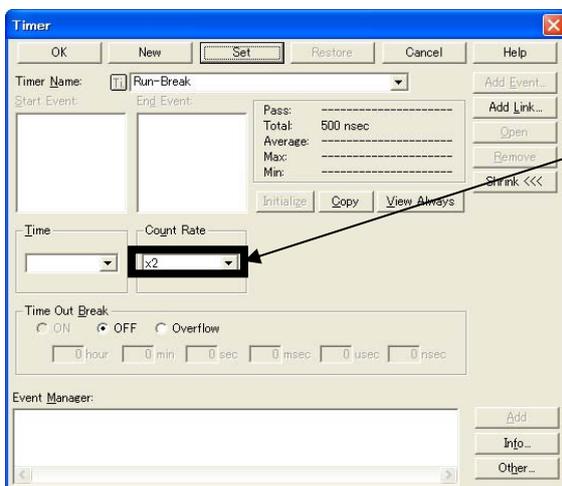
【内 容】xtime - gobreak を実行すると、計測時間が nsec ではなく cclock で表示されます。

【回避策】xtime - gobreak で表示される cclock は、タイマ・ダイアログで設定した Count Rate (分解能) によって変化いたします。

実際の実行時間は、下記式で計算可能です。

実行時間 = タイマ・ダイアログで設定した Count Rate × 表示された cclock 数

測定可能実行時間	測定可能実行回数
最大 1 分 25 秒 (分解能 20n 秒)	最大 4294967295 回
最大 48 時間 50 分 (2K 分周時, 分解能 41 μ 秒)	(32bit)



X1:最小分解能 20ns(初期値)

.....

X2048:最大分解能 41ns

例 測定結果が 500ns の場合

xtime - gobreak 25clocks... X1(25 × 20 = 500ns)

xtime - gobreak 12clocks... X2(12 × 40 = 480ns)

xtime - gobreak 6clocks... X4(6 × 80 = 480ns)

xtime - gobreak 3clocks... X8(3 × 160 = 480ns)

xtime - gobreak 1clocks...X16(1 × 320 = 320ns)

xtime - gobreak 0clocks...X32(分解能以下のため測定不可)

【改善案】V3.10 で修正しました。

No.89 特定条件においてデバッガの操作が著しく遅くなる制限 <共通>

【内 容】空の “.C” ファイルまたはコメント分を含む “.ASM” ファイルを含むプロジェクトをデバッグする場合、デバッガの操作が著しく遅くなることがあります。

【回避策】ありません。

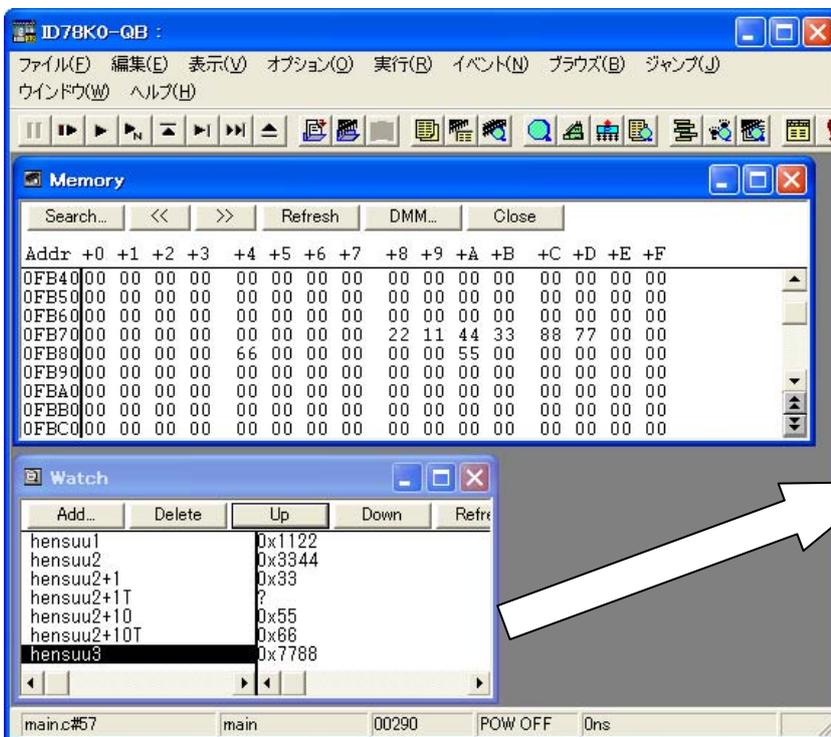
【改善案】V3.10 で修正しました。

No.90 デバッガでアドレスを指定するときの制限 <共通>

【内 容】デバッガでアドレス指定を行う場合、“変数名”+“数値”で指定を行うと“1T~9T”を数値として認識できません。

よって、“1T~9T”を使用したアドレス指定は、アドレスが不正になります。

例 Watch ウィンドウで“1T”を使用した場合



変数名	対応アドレス
hensuu1	:FB78,FB79
hensuu2	:FB7A,FB7B
hensuu2+1	:FB7B
hensuu2+1T	: アドレスが不正
hensuu2+10	:FB8A
hensuu2+10T	:FB84
hensuu3	:FB7C,FB7D

【回避策】“0T~9T”は、使用せず“0~9”を使用して下さい。

【改善案】V3.10 で修正しました。

No.91 新規ログイン名でデバッガが起動できない制限 <MINICUBE,MINICUBE2>

【内 容】Windows に新規のユーザ名でログインした場合、その新規ユーザ名でデバッガを起動するとデバッガの初回起動に限りコンフィギュレーション・ウィンドウからプロジェクトを開けないことがあります。

【回避策】Windows の新規ユーザ名でデバッガを起動する場合は、初回起動時のみ、コンフィギュレーション・ウィンドウからプロジェクトを開かずにデバッガを起動してください。その後プロジェクトを開いてください。

【改善案】V3.10 で修正しました。

No.92 Main Clock 設定が " System " 8.00MHz,16.00MHz 時の制限 <MINICUBE2>

【内 容】MINICUBE2 接続時コンフィギュレーション・ダイアログの Main Clock System 設定を 8.00MHz または 16.00MHz に設定したプロジェクト・ファイルを開くとプロジェクト・ファイルの設定値と異なる 4.00MHz で動作してしまいます。

【回避策】ありません。

【改善案】V3.21 で修正する予定です。

No.93 サブクロック動作時のブレークに関する制限 <共通>

【内 容】CPU をサブクロックで動作させていて、かつデバッガの Configuration ダイアログの Monitor Clock 設定が " System " の場合、ブレーク時にエラーが出たり、表示速度が遅くなる場合があります。

【回避策】ありません。

【改善案】V3.21 で修正する予定です。

No.94 サブクロック動作時の ADCR/ADCRH レジスタ表示に関する制限 <共通>

【内 容】CPU をサブクロックで動作させた場合、ADCR/ADCRH レジスタを SFR ウィンドウで表示するとエラーが発生する場合があります。

【回避策】ADCR/ADCRH レジスタをデバッガの SFR ウィンドウで表示しないでください。表示させないようする方法は以下のとおりです。

SFR ウィンドウ上で右クリックをして[表示選択]を選択します。

SFR Select ウィンドウが表示されます。

SFR Select ウィンドウ内の Display 部分に表示されている ADCR/ADCRH を選択し hide ボタンを押します。

SFR Select ウィンドウ内の No Display 側に移動したことを確認し、OK ボタンを押します。

【改善案】検討中です。

No.95 78K0/1x2 の 16 ビット・タイマ X0/X1 コンペア・レジスタ 0-3 設定制限 <MINICUBE2>

【内 容】MINICUBE2 を用いて 78K0/1x2 をデバッグの際に 16 ビット・タイマ X0/X1 コンペア・レジスタ 0-3 (TXOCR0, TXOCR1, TXOCR2, TXOCR3, TX1CR0, TX1CR1, TX1CR2, TX1CR3) を書き換えようとしても下位 8 ビットが 00H になり書き換えることが出来ません。

【回避策】ありません。

【改善案】V3.21 で修正する予定です。

以上